

主要事業評価シート(第2次実施計画 / R1・2・3年度)

基本事項	計画コード	事業名		部名	生活文化部	
	17039	鈴鹿関跡学術調査事業		課名	文化スポーツ課 まちなみ文化財G	
	施策の大綱	01:快適さを支える生活基盤の向上		財務科目	会計	01:一般会計
	基本施策	10:歴史文化の継承・活用			款	10:教育費
	施策の方向	01:文化財の保存・継承と活用			項	05:社会教育費
戦略プロジェクト	-		目		05:遺跡調査費	
事業予定期間	H 18 ~ R 4 年度	主な根拠法令要綱等		文化財保護法、三重県文化財保護条例、亀山市文化財保護条例		

目的・概要	対象	市民、土地所有者、来訪者、開発事業者	
	目的	平成18年度～26年度に実施した鈴鹿関跡範囲確認調査では、鈴鹿関の西端を区画する西外郭構造物の存在と、その位置の確認を行うことができた。平成29年度から実施している学術調査専門委員会の指導に基づいた学術調査を引き続き行い、文化財的価値を明確にし、国史跡指定を目指す。	
概要	概要	学術調査専門委員会の指導に基づく発掘調査を実施し、調査報告書として取りまとめ、令和2年度に鈴鹿関跡(北側)の史跡指定の申請(意見具申)を行い、国史跡指定を目指す。また、引き続き、鈴鹿関跡(南側)の追加史跡指定に向け発掘調査を実施する。	

		令和元年度	令和2年度	令和3年度	
年度計画	年度計画	発掘調査(補足調査)の実施 学術調査専門委員会の開催 学術調査概要報告書の作成	発掘調査(補足調査)の実施 学術調査専門委員会の開催 学術調査報告書の発行 鈴鹿関跡(北側)の史跡指定に向けた意見具申	発掘調査(補足調査)の実施 整備委員会の立上げ・開催 学術調査概要報告書の作成 シンポジウムの開催	
	年度実績	発掘調査(補足調査)の実施 学術調査専門委員会の開催 4回 発掘調査概要報告書作成刊行 学術調査専門委員現地指導 1回 文化庁調査官現地指導 1回			
事業の計画・実績	計画額	事業費	4,200千円	2,600千円	3,000千円
		国庫支出金	1,600千円	1,000千円	1,000千円
		県支出金		230千円	230千円
		地方債			
		その他			
		一般財源	2,600千円	1,370千円	1,770千円
	予算額	事業費	3,900千円		
		国庫支出金	1,263千円		
		県支出金			
		地方債			
		その他			
		一般財源	2,637千円	0千円	0千円
	決算額	事業費	3,231千円		
		国庫支出金	1,263千円		
		県支出金			
地方債					
その他					
一般財源		1,968千円	0千円	0千円	
人件費	総人件費	2,355千円	0千円	0千円	
	一般職員	2,355千円	0千円	0千円	
	所要人員	0.30			
	会計年度任用職員等	0千円	0千円	0千円	
総コスト(+)		5,586千円	0千円	0千円	
受益者負担率		0.0%	0.0%	0.0%	

			令和元年度	令和2年度	令和3年度
指標	名称	鈴鹿関跡(北側)史跡指定に向けた取り組み	計画値 発掘調査	意見具申	
			実績値 発掘調査		
			単位		
	名称	鈴鹿関跡(北側)史跡指定	計画値		指定
			実績値		
			単位		
名称	鈴鹿関跡(南側)史跡指定に向けた取り組み	計画値		発掘調査	
		実績値		発掘調査	
		単位			

事業の改善	前回評価	【前回評価の対応方針の概要を記入】 観音山南西麓の南側において補足調査を実施する。また、平成30年度及び令和元年度に実施した発掘調査の成果を概要報告書にまとめる。
	改善行動	【前回評価の対応方針を踏まえ、どのような措置を講じたか】 学術調査専門委員会からの指導内容に基づき、観音山南西麓の南側において補足調査を実施し、その成果を概要報告書にまとめた。

		評価	(判定)
事業の評価	活動	【計画どおりに実施できたか】 学術調査専門委員会を4回、同専門委員及び文化庁調査官の現地指導をそれぞれ1回ずつ実施し、それらの指導及び県教育委員会の助言に基づき、観音山南西麓の南側において補足調査(発掘調査)を実施した。また、調査の成果を概要報告書にまとめた。	A 計画どおり実施できた
	成果	【成果は順調に上がったか】 補足調査により、この部分が鈴鹿関の西外郭線構築物の一部であることが判明し、観音山南西麓から南方へ築地が続くことが確認された。これらの調査成果を概要報告書にまとめ刊行した。	B まずまず成果を得た

今後の対応方針	課題	【課題は何か】 観音山南西麓及び城山南西部で確認された遺構の連続性や古代道路の位置等、これまで指摘されている一部不明瞭である専門的な価値付けについて、引き続き明らかにする必要がある。	今後の方向性 <input type="checkbox"/> 拡大 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> その他 【その他の場合、その内容を記載】
	対応	【課題に対し、どのように対応するか】 過去に実施した第1次調査から第8次調査までの成果の再評価を行い、総括報告としての調査報告書を作成する。	
	効果	【対応することで、どのような効果が期待できるか】 鈴鹿関の遺構の連続性等、これまで一部不明瞭であった専門的な価値付けが明らかとなることで、国史跡指定への大きな前進となる。	
対応時期		令和2年度	

【1次評価者】	生活文化部 文化スポーツ課 まちなみ文化財グループリーダー 山口 昌直
【最終評価者】	生活文化部 文化スポーツ課長 小森 達也

(参考:前期基本計画期間(H29-R3)における評価履歴)

		H29	H30	R1	R2	R3
判定	活動	B	B	A		
	成果	B	B	B		

令和元年度予算額(事業費)の内訳

予算額(事業費)		3,900 千円
内訳	平成30年度からの繰越額	千円
	令和元年度の最終予算額	3,900 千円
	令和2年度への繰越額	千円